

今、どういったことが世の中で起こっているのか。また、政府の取組みとしてどのような取組みが行われているのか。最後に経済産業省がキャリア人材育成について、どのような取組みを行っているのかについてお話します。プレゼンの間は、前のスライドをご覧ください。

まず、今どのような時代が訪れているかについてです。行政説明等資料 78 ページ下の左のとおり、今は「人生 100 年時代」といわれ、人間の寿命が企業の寿命に比べ非常に長くなっています。また、右の「AI×データ時代」が加速することで、この二つの構造変化によって、「働き方」が大きく変わっています。

「AI×データ時代」については、第四次産業革命により、IoT でデータを収集しビッグデータ化し、それを AI・ロボットでサービスを代替するなど、これまで実現不可能と思われていたことが、実際に起きる世の中になっています。

79 ページの人口動態の変化と産業構造の変化の二つによって、どういった構造の変化があるかという点、81 ページ下のスライドになります。現状のまま放置をしますと、左側の図のように、市場が喪失し、仕事の量は減り質が低下していきます。また、今ある仕事の一部がロボット・AI に代替され低賃金化していく恐れがあります。

このような変化に対応していくために、当省では、目指すべき姿として右側の姿を提唱しています。まず、AI・ロボット等に代替され得る仕事については時代の変化として受け入れざるを得ませんが、その上については AI・ロボットをうまく活用し、いかにして内外から良い人材を集積して新たな雇用ニーズに対応していくのかといった姿が、今後求められてきます。

次に、人口動態の変化、産業構造の変化に伴い、政府の取組みについての経緯をお話します。

2016 年に「1 億総活躍プラン」が策定され、「働き方改革」や人材育成について着目されました。「働き方改革」については、2017 年 3 月に実行計画が策定され、特に前々から問題とされていた長時間労働の是正が取り上げられました。しかし、長時間労働を是正するだけでは足りません。企業にとっては利益向上に結び付けることが大切です。したがって、この長時間労働の是正と生産性向上とをセットにする必要があります。2017 年に「人生 100 年時代構想会議」が発足しました。

平成 29 年 9 月の経済財政諮問会議においては、安倍総理が「人づくり革命」と「生産革命」を 2 本の柱としてこの施策を具体化するため、内閣をあげて、年内に新しい政策パッケージ策定する」と発言しています。

「働き方改革」は 83 ページの通り 2 つの章に分かれています。第 1 章として「長時間労働への規制強化」が挙げられますが、こちらを解決するだけでは、上のイラストのボーリングのピンが一番手前にあるものを倒すことに過ぎません。第 2 章として、単なる残業時

間の縮減だけではなく、きちんと生産性を上げ、また従業員のエンゲージメント、モチベーションを上げ、そのために従業員も学び続けるという改革が必要だということを提唱しています。

また、今後、働き方改革を進めていくにあたり、ポイントが三つあります。

一つ目として、企業においては、その組織にいる時間や在職期間による評価や、成果を生み出すために獲得したスキルによる評価が非常に重要になってきます。

二つ目として、兼業・副業などいろいろな働き方が問われています。育児や介護等の誰もがライフステージにおいて直面するであろう課題に対応しながらきちんと働き続けるということを考えますと、今のように朝から晩まで一日中オフィスにいるという働き方ではなく、テレワークの活用、短時間勤務など勤務時間の柔軟化、または副業や兼業など様々な働き方が求められるようになってきています。

三つ目として、学び直しの機会です。一つ目と二つ目で申し上げたような柔軟な、自由な働き方が今後可能となってくるということは、個人が自分自身のキャリアについて責任を持つことが必要になります。企業のみでの努力ではなく、個人もきちんと学び直さなければいけない、そのような文脈で学び直しの機会が非常に重要になってきております。

今後、求められる能力としましては 85 ページに、これから必要となる能力・資質を挙げました。下段は、専門知識、リテラシー、基幹能力、マインドなど基本的な能力に当たるもので、上段については、いわゆる知識にあたるものになります。

このような説明の際に、よくコンピューターに例えます。上段についてはアプリにあたり、下段については OS にあたります。アプリにあたるものを身に付けることが社会で活躍していくためには重要ですが、そのアプリを身に付けるためには OS にあたる下段の能力がきちんと備わっていないとはいけません。

今後必要となる資質・教育に向けた当省の取組としては、まずキャリア教育の推進として企業・経済団体による教育支援を奨励するためにアワード形式でシンポジウムなどを開催しています。また、厚生労働省や文部科学省など他省庁と連携しながらインターンシップの推進も行っています。

次に、当省が昨年度に見直しを行いました社会人基礎力について説明します。88 ページのとおり「前に踏み出す力」・「考え抜く力」・「チームで働く力」の 3 つを社会人基礎力として 2006 年に当省から提唱しています。ニート問題などが取り上げられた時期であり、社会人基礎力を大学卒業から就職するまでの間に必要な能力として提唱しました。ただし、今や人生 100 年時代を迎え、何歳になっても学び直す・学び続けることが必要となり、このような時代だからこそ社会人基礎力が重要であるとして見直されました。89 ページのとおり、今回は 2006 年に提唱した社会人基礎力と同時に三つの視点が重要であるとして、「人生 100 年時代における社会人基礎力」として提唱しました。何を学ぶか・どのように学ぶか・それを使ってどう活躍するかというリフレクション、が重要となることをメッセージとして掲げています。個人が努力することも必要ですが、企業・組織にとっても優秀な人

材の確保・競争力の向上のために、個人の社会人基礎力を伸ばすための人材育成に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、89 ページのアンケートの結果では、企業と学生では必要な能力に関する意識のずれがあることを表しています。コンピューターでいいますと OS にあたる、粘り強さ、チームワーク力、主体性、コミュニケーション能力について学生に質問したところ、学生自身はサークル・ゼミなどで、こういったスキルは十分に備わっていると回答する学生が多いようです。一方で、人事担当者含めて企業側からすると、まだまだ足りないという結果になっているのが現状です。

当省としましては、このような結果も踏まえ社会人基礎力も含めたキャリア教育の一層の推進について、今後も他省庁と連携しながら取り組んでいきたいと思います。また本日、お集まりいただいている企業関係者・教育関係者とも連携を取りながら人材育成に取り組んでいきたいと思います。